【電子かわら版　チャペル・アワー　No.011】 2020 年 6 月 23 日（火）
★今週の前奏：Baba Yetu Yetu(スワヒリ語による「主の祈り」合唱版)
https://www.youtube.com/watch?v=N4tvF1U9wRY
★今週の聖書：ヨハネによる福音書 3：22～30・ハバクク書 2：1～4（旧約聖書の終わりの方）
★今週の賛美歌：480 番
https://www.youtube.com/watch?v=qhAeA9yWv0Q
ブラジル・サンパウロ　福音合唱団（Coral Evangélico de São Paulo）による、原曲（ポルトガル語）での合唱
★今週の後奏：Morten Lauridsen 作曲、Sure on This Shining Night
https://www.youtube.com/watch?v=UwxlMvV6LkE
★今週のアート：Goussin de Metz' "L'image Du Monde,"（1245 年）より、「宇宙」.

★ メッセージ：「神の時」が満ちる

6 月 21 日日曜日は夏至の日でした。更に今年は夏至の日の夕刻に部分日食が見られるはずでした。残念ながら、群馬県では一日中曇り空で、部分日食も、そして、「光の時間が一番長い日」の恩恵も、めいっぱい感じる、というわけにはいきませんでした。次に夏至の日に日食が巡ってくるのは 2030 年だそうです。待ち遠しいことです。

夏至や、日食など、21 世紀の今日、私たちは古代の人々よりは正確にその日時を知ることができます。カレンダーにも書き込まれ、あたかも、私たちの手に、そうした日程の決定権があるかのように感じてしまいがちですが、よく考えてみれば、夏至がいつなのか、次の日食や月食はいつなのか、金星や木星や土星といった地球からでも見える惑星たちの出や入りの時刻も、合（地球からみると重なってより明るく見える）の日程も、どれ一つをとっても私たちのコントロールに服しているものはありません。何世紀もの、数知れない天文学者たちの観察と研究の成果に基づいて正確に計算できるようにはなったものの、こうした「天体の不思議」がいつ、どうやって起こるのか、その根本的な部分を握っているのは、聖書の物語の世界観からすれば、「天地万物の創造の神」だと言う他ありません。

今日、皆さんと鑑賞している、この羊皮紙に描かれた「宇宙の図」は、地球を真ん中に幾層もの「天」が、神の緻密な計算と設計の下に運航しており、その全てを神が支配し、制御しておられる様を描いたものです。人間には決定することのできない、壮大な「宇宙」＝神様の造られた世界全体が刻む「時」の存在を、この絵は描こうとしていると言えます。人間は、この、神が造られ管理しておられる「時」を、知恵を凝らした機械で「測る」ことはできます。しかし、私たちが造った機械＝時計や予定表＝カレンダーによって、神様の時の流れをどうこうすることはできません。キリスト教の伝統では、こうした 2 つの「時」について、人間が考案した機械や予定表（暦）で区切る「時間」を（ギリシャ語で）「クロノス」、そして、神の手の中にあって、神だけがその開始や推移、そして終了を知る「時」を「カイロス」と呼んでいます。神だけが知っておられる、特別な「時」の満ち引きが存在する、という考えを、今週は、2 つの聖書の箇所を読み合わせながら考えます。

最初に「ハバクク書」という、預言書を見てみましょう。預言者ハバククは、砦か、都市を守

る城壁の見張りの塔に立ち、敵を見張るのではなく、神が、自分に近づいて語り掛けてくださるその「時＝カイロス」を、今か今かと待っています。すると、遂にその「時」が来て、ハバククは神の言葉を聴きます。するとそれはまさに、神が「定められた時」＝カイロスの到来についての言葉だったのです。

3 節に不思議な言葉があります。「たとえ、遅くなっても、待っておれ。それは必ず来る、遅れることはない。」「遅くなる」とは「遅れる」ことではないのでしょうか？いえ、そうではありません。「遅くなる」とは、私たち人間が「未だか、未だか」と時計を見たり、カレンダーを見たりしてイライラする「クロノス」の時を指しているでしょう。しかし、神の時＝「定められた時」の到来は、神のみが「いつ」と決めた、丁度「その時」しかないタイミングで「遅れることなく」やって来る、ということなのです。「高慢な者」は、その「カイロス」を無視し、その「時」を待つことができず、あれこれと策を弄して、「時が来た」かのような演出をするでしょう。しかし、神に信頼を置く＝従う人はそうではない。ハバククのように、いつも「見張り」の緊張感をもって、「その時」＝「神が私たちの訴えにどう答えるかが解る時」の到来のしるしに目を凝らし、耳を澄まして「待つ」のだ、というのです。そのしるしが現れたら即座にそのしるしを、板＝檄（緊急の知らせを書き記す木片）にはっきりと大きく書いて、人々に知らせに走る準備を整えて。

ヨハネ福音書の物語も、なにやら不思議な雰囲気です。整理をしますと、イエスの物語の最初はどの福音書でも、イエスの宣教の始まりを描いています。そして、その場面はどの福音書でも、多少の表現の違いはあっても、「ナザレのイエス」というキリスト（救い主）の到来を人々に告げ知らせる役目を担った「洗礼者ヨハネ」が舞台から降り、「ナザレのイエス」が登場する、というものなのです。ヨハネ福音書も、この箇所で、「洗礼者ヨハネ」がいよいよ役目を終えて降板する、その場面を描いており、私たちは今週、そのヨハネの「下げ」の言葉に注目します。

ヨハネの弟子たちが、あっちで「ナザレのイエス」とかいう新人が、あなたと同じような活動をして、あなたの「弟子」を奪っているが、どうするのか、と問うのに対し、ヨハネは答えます。

「花嫁を迎えるのは花婿だ。花婿の介添え人はそばに立って耳を傾け、
花婿の声が聞こえると大いに喜ぶ。だから、わたしは喜びで満たされている。
あの方は栄え、わたしは衰えねばならない。」

ヨハネもまた、じっと耳を澄まし、花婿＝イエスの登場の「時」＝カイロスを待っていました。そしてその「時」の到来を知ったヨハネは、今こそ、自分が衰える＝表舞台から降板して、主役＝キリストの登場に場を譲るべきだと言っているのです。ここにも「時」の到来を、あらゆる準備を整えて待ち、その「時」が来た時に、自分のなすべき務めを果たそうとする人の姿があります。人間が計測する時＝クロノスを越えて存在する、神の時＝カイロスを知ろうと目を凝らし、耳を澄ましてその「時」のために準備を整え、その時の到来に信頼して待つ人の姿です。神の時が到来して、そこに啓ける「新たな光景」を幻＝vision として抱きつつ、待つ人の姿です。

そんな「時」の待ち方を、私たちは身に着けているでしょうか？何月何日の何時何分になったから、「もういいだろう」「早く早く」と、時計や暦を中心に物事を進めようとする私たちにとって、「カイロス」という時は厄介です。それは、私たちが見えるようにできた、と思っている「時間」を越えて存在し、目盛りを刻むというよりは、海の潮のようにひたひたと、満ちたり引いたりしながら私たちを訪れるもののようです。ひたひたと満ちる時＝カイロスの到来を、真実に知ろうとするものでありたいと願います。

【祈り】神さま、あなたの時が満ちるのを、目を凝らし、耳を澄まし、準備を整えて待つことのできる、忍耐と知恵、そしてあなたの愛への信頼を与えてください。アーメン。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊：解説
★今週の前奏：Baba Yetu Yetu(スワヒリ語による「主の祈り」合唱版)
https://www.youtube.com/watch?v=N4tvF1U9wRY

ビデオ・ゲーム「Civilization 4」のテーマ音楽として有名ですが、実はキリスト教の「主の祈り」が歌詞なのです。
リンクを提示している動画は、作曲者＝Christopher Tin 自身が指揮をして、ロイヤル・フィルハーモニック・オーケストラ（イギリス・ロンドン）＆合唱団が２０１６年７月１９日に演奏したもののライブ録画。動画の下の方に、スワヒリ語と英語で歌詞が同時に流れます。
リンクを提示している動画は、作曲者＝Christopher Tin 自身が指揮をして、ロイヤル・フィルハーモニック・オーケストラ（イギリス・ロンドン）＆合唱団が２０１６年７月１９日に演奏したもののライブ録画。動画の下の方に、スワヒリ語と英語で歌詞が同時に流れます。

日本語の歌詞は次の通り（「主の祈り」の言葉を参考に＞＞「讃美歌 21」93-5　A/B/C　を参照）

Baba yetu, yetu uliye	私たちの、私たちの　父よ
Mbinguni yetu, yetu amina!	天にいらっしゃる、私たちの父、アーメン！
Baba yetu yetu uliye	私たちの、私たちの　父よ
Jina lako e litukuzwe.	み名があがめられますように。
Utupe leo chakula chetu	今日、私たちに与えて下さい、必要な食物を。
Tunachohitaji, utusamehe	お許しください、
Makosa yetu, hey!	私たちの負い目（罪）を！
Kama nasi tunavyowasamehe	私たちも許します、
Waliotukosea usitutie	私たちに負い目（罪）のある者を。
Katika majaribu, lakini	誘惑におちいらせないでください、
Utuokoe, na yule, muovu e milele!	そうではなく、悪から救いだしてください。
Ufalme wako ufike utakalo	あなたのみ国がきますように、
Lifanyike duniani kama mbinguni.	み心が地上で実現しますように、
天でそうであるのと同じように。	
(Amina)	（アーメン）

今週のメッセージは「神の時が満ちる、とは？」という問いを中心に考えてみました。「神が存在するならなぜこんなことが？」と思うようなことばかりの現代だからこそ、「時が満ちて」、神の名があがめられ、神の計画がこの地上に「完全に」実現するときが「今日、今、ここに」来るように、と祈ります。「このように簡潔に（ただこれだけを）祈りなさい（これが願うべき全てだから)」とイエスが弟子たちに直接教えた祈りの言葉です。「まだ」だけど、「あたかも今、そうであるように」生きるための祈りともいえるかもしれません。

★今週の賛美歌：480 番
https://www.youtube.com/watch?v=qhAeA9yWv0Q

賛美歌の記載では作詞・作曲共にエルネスト・カルドーゾ、となっていますが、実際には彼一人の作品ではなく、彼を中心とする「スポルテアルテ」という音楽工房活動（新しい賛美歌を作る運動体）から生み出された共同作品。音楽はブラジルの「土着」の音楽様式のうち、最も有名なサンバ。ブラジルの 1990 年代の世相（独裁、貧困、不正）を背景に、それを打ち破る力を求め、「新しい時＝神の時」へと限りなく近づいて行く希望や、そのための勇気を願う歌。

1996 年 11 月にサルバドールで開催された世界教会協議会の世界宣教会議で英語、スペイン語、ドイツ語にも訳されて歌われ、ブラジルを代表する賛美歌の位置を堂々占めるようになりました。

★今週のアート：Goussin de Metz' "L'image Du Monde,"（1245 年）より、「宇宙」.
フランス国立図書館所、Fr.14964, fol. 117 .(Image: © Bibliothèque Nationale de France)
出典は https://www.space.com/25301-multiverse-concept-middle-ages-grosseteste.html

13 世紀の手稿本（手書きの書籍）に描かれたキリスト教（聖書の物語に基づいて理解された）の考える、神と宇宙全体のイラスト。神は宇宙のあらゆるものの上・外に存在し、すべての天体の運行も、世界の事物の推移もコントロールしている、という理解。「神の時」は人間の制御には属さない。日々の時間さえも、本当のところは「神の時」だという考えが見て取れる。

★今週の後奏：Morten Lauridsen 作曲、Sure on This Shining Night

歌詞は、エイジー（James Rufus Agee ， 1909-1955、アメリカ)による詩「4 つの歌」より、「Sure on this shining night」。夏の夜に星空を見上げて、創造の不思議や神の時の流れに身をゆだねるような詩には、他にも曲をつけた作曲家がいますが、今回はアメリカの現代作曲家(現役)の Morten Lauridsen のものを。Lauridsen についてよく知りたい人は、英語ですが、このサイトで。https://www.youtube.com/watch?v=8XdAr03sKYY

【歌詞対訳】

Sure on this shining night	きっと　この輝く夜には
Of starmade shadow round,	星の作る影に満ちた
Kindness watch for me	やさしさが見守ってる　私のことを
This side the ground.	この地上で
	過ぎた年は横たわる　北の方に
The late year lies down the north.	すべてが癒され　すべては健やか
All is healed, all is health.	真夏が抱くのだ　この大地を
High summer holds the earth.	心のみなすべてを
Hearts all whole.	
Sure on this shining night	きっと　この輝く夜には
I weep for wonder	私は泣く　奇跡のために
Wandring far alone	さまよいながら　遠くただひとり
Of shadows on the stars.	星たちの影のもと

（2019.09.22 藤井宏行 ）

http://www7b.biglobe.ne.jp/~lyricssongs/TEXT/S11969.htm　より